

## 文京国際フェスタ 2011「初めてのボランティア」

伊東慈子

ボランティア……広辞苑によると「義勇兵の意。志願者。奉仕者。自ら進んで社会事業などに無償で参加する人。」と定義されています。また、web辞書 wikipedia によると、日本でのボランティアの歴史は比較的浅く、1989年のアメリカ・サンフランシスコ大地震の際、NGOの支援を得て大学生を中心に38人のボランティアが現地で活躍したのが我が国のボランティア活動の始まりとして認識されているようです。その後、1990年に起きた雲仙普賢岳の噴火、その翌年の湾岸戦争の際には、現地に駆け付け活動するボランティアだけでなく、被災者の方々への救援物資提供の呼びかけ、整理、送付の手配などの作業にも多くのボランティアが活躍したということです。そして、1995年の阪神・淡路大震災では全国から大勢のボランティアが被災地に駆けつけたことから、その年は「ボランティア元年」と呼ばれているそうです。

去年はハイチ大地震やメキシコ湾原油流出事故などの災害現場で多くのボランティアが献身的に活動しました。その様子をテレビやインターネット、新聞などを通して目にし、自分も日本にいながら何か協力できることはないかと考えたのですが、せいぜいわずかばかりの募金をすることくらいしかできませんでした。

もちろん、単なる金銭的支援よりも自身の身体を使い実際に活動するボランティア行為の方が尊いのだ、などと言うつもりはありません。自分は普段通りの生活をしながらではあるが、いくばくかの金銭を捻出し困っている人たちの救済に役立てていただく、これもまた立派な行いだと思います。

しかし、今回私は、自身の身体と時間を使ってこちらのボランティア活動に参加しようと思い立ちました。微力ながら困っている人たちの手助けになれば、という思い以外にもう一つ目的があったからです。それは、ボランティア活動を通じて人とつながりを持ちたい、というものでした。

たまたまこの時期が仕事上閑散期のため、かなり時間的余裕がありました。また、特に経済的に困っているわけでもありません。「ならばこの健康な身体と余りある時間を有効に使うにはどうすればいいか。それには、人のお役にも立てるし普段知り合えない人たちとも知り合えるボランティア活動が最適であろう」という極めて単純な発想でボランティア活動を思い立ったのです。純粋に「困っている人の手助けをしたい」という高邁な精神からボランティア活動をなさっている方々からみれば、私の動機はある意味不純かもしれません。でも、結果的には人々の役に立つのだからいいのだ、と自分には言い聞かせています。

さて何のボランティアをしようかと思い、まずは地域のボランティア募集がないかネットで探してみました。残念ながら、私が住んでいる地域はさほどボランティア活動が盛んな地域ではないらしく、自分でも参加できそうなものはみつかりません。そこで、全国のボランティア募集リストが載っている「NHKボランティアネット」というサイトで検索したところ、今回の「文京国際フェスタ」のボランティアブース要員募集を知り、参加するに至ったのでした。

当日、私は主に韓国茶の販売要員として働きました。4種類の韓国茶（お茶というよりも甘いホットドリンク）を準備し、50円で来場者に買っていただきました。イベントが終わり、案外売れたなど個人的には思ったのですが、ベテランスタッフの皆さんによると、募金を含めた収益は全然大した事がない、とのこと。確かに今思えば、お茶は無料で振る舞い、その代りいくらかでもかまわないのでお志をいただく、という形の方が募金は集まったように



韓国茶の舞台裏です



広報ブースもだしました

に感じます。人は、物に値段が付いていると、どうしてもその対価分しかお金を出さない、という傾向にありますから。今回のイベントは、食べ物・飲み物は値段をつけて販売するというコンセプトだったらしく仕方なかったのですが、どういう方法で人様のお気持ちを頂戴するか、なかなか難しいところではあります。それでも、今回の売り上げ、そして募金が最終的にはカンボジアの子供たちの笑顔につながるのだと思うと、ほとんど立ちっ放しで（時々お茶の補充のため走りもしました）頑張った甲斐がありました。

もう一つの私の目的「人とつながる」ですが、こちらに関しても参加してよかったという気になりました。ボランティアスタッフさんは、私を除き、ほとんどの皆さんが若い世代の方々でした。私の職業柄、若い人たちと接する機会はあることはあるのですが、対等な立場で話をするということはほとんどありません。それが今回は、ボランティアスタッフという同じ立場にいる者として（というよりも、私はボランティア初心者ですからむしろ「後輩」ですね）、いろいろお話ができたというのが私にとっては新鮮であり、大きな収穫でもありました。

私にとって今回の活動参加は、自分の居場所の一つとしてこれからもボランティア活動を続けていきたい、という気にさせられる有意義なものとなりました。一緒にボランティアブース要員として尽力なされた皆さん、お疲れさまでした。また、お会いできる機会を楽しみにしています。



無事終ってホッとしました